

アグリパワー

植物治癒活性化資材

《 使用方法 》

高濃度 ⇒ 病害虫・改善 低濃度 ⇒ 生育・品質・土壌改良



【植物乾留エキス】	生育活性効果
【トロポロン】	病害菌・抑制効果
【キトサン】	病害虫・改善効果
【クエン酸】	葉面・土壌改良効果



マウスによる
急性経口毒性試験済み

株式会社 成 田
〒573-0036大阪府枚方市伊加賀北町3番6号
TEL 072-841-5284 FAX 072-841-5285
URL <http://www.kk-narita.co.jp>

<アグリパワー(植物治癒活性化資材)の概要>

特 徴

松、檜、熊笹など、35種類の植物水性・油性エキス(^{ナリ} **🌿フィトン35®**)とクエン酸・キトサンを組み合わせた人畜無害の100%天然原料からできた植物治癒活性化資材です。高純度のクエン酸でキトサンを液状化させ、より成分が植物に吸着するよう、キトサンに有機成分とトロポロンを抱え込ませています。

※ ^{ナリ} **🌿フィトン35®**とは35種類の天然植物抽出、水性エキスを油性エキスを巧みに組み込み、特許を取得した技術です。

原 料

杉、檜、ヒバ、モミ、トウヒ、黒松、赤松、エゾ松、楠、白樺、柿、茶、ミカン、イラクサ、熊笹、シソ、サンショウ、アマ茶ヅル、南天、ビワ、イチジク、栗、ハウノキ、カシワ、イチヨウなど35種類・クエン酸(純度99%以上)、キトサン(純度92%以上)、トロポロン

効 果

^{ナリ} **🌿フィトン35®**…生育活性効果
トロポロン………病害菌・抑制効果
キトサン………病害虫・改善効果
クエン酸………葉面・土壌改良効果
植物体内の酵素を活性化させ、粘りを良くし、生育を促進させます。
品質、収穫量共に対病害虫抑制力がアップします。
土壌微生物の善玉菌(放線菌等)が増殖し、連鎖障害を軽減します。

<アグリパワー(植物治癒活性化資材)の概要>

成 分

アミノ酸、タンニン酸、クエン酸、ミルティン酸、バトテン酸、酵素、コリン、フラボノイド、ポリフェノール、テルペノイド、ブドウ糖、スチルペン誘導体、セルラーゼ、アミラーゼ、ペクチナーゼ、ツコプヒン、クパリン、ドブプリン、 α -ビネン、 d - α テルビネン、ボルネオール、 $\gamma\gamma$ -カジネン、 α -カジノール、カンフェン、セキスベニヘン、セキスベニヒオール、イソボルネオール、エンデススモール、 α -ジヒドロミルテノール、 d -ミルテノール、シェノール類、脂肪酸エステル類、 d -リモネン、葉緑素、トロポロン、各種テルペン

農薬・ 化学肥料 対策

アグリパワーを適度な濃度で土壌散布や葉面散布をすることにより、病害・害虫を抑制、農薬・化学肥料を使用しすぎ、エンガイを起こした土壌を改良(苗付け前・収穫後にアグリパワーを散布)・品質改良でき、農薬や化学肥料の使用を減らすことができます。

<アグリパワー(植物治癒活性化資材)の使用方法>

水で薄めて使用する

高濃度 ⇒ 病害虫・改善

低濃度 ⇒ 生育・土壌改良

種・種芋から育苗まで

- ・ 種や種芋を1,000倍希釈液に浸漬後、自然乾燥させる。
豆類……10秒間
種芋……30分間
米………24～48時間
根菜類、葉菜類、果菜類、花など…種を10～20分間
- ・ 苗を500倍希釈液に約3～10秒漬ける。
- ・ 播種時や育苗中に1,000倍希釈液を数回散布する。

播種および定植後

- ・ 定植から収穫まで原液を1,000～2,000倍希釈し3回～4回以上散布する。
- ・ 10aあたり原液を1,000倍希釈し200L散布する。

病害虫発生時

- ・ 原液を300～500倍希釈し3～10日おきに葉面散布する。
- ・ 10aあたり300～500倍希釈し、300L～500L土壌散布する。

〈ご参考 1a=100m²〉

<アグリパワー(植物治癒活性化資材)の使用方法>

土壌改良

- ・ 10aあたり原液400mlを10,000倍希釈で全量土壌散布する。

水田・水耕栽培

- ・ 10aあたり原液500mlを5,000～10,000倍に希釈し、田植え後30～40日頃に、流水と共に水口から流す。

その場合、できるだけ長く時間をかけて、水田全体に流れるようにする。

※流す前のある程度、水位を落としておくこと。

■注意事項

- ・ 単品使用が好ましいですが、農薬と併用も出来ます。
- ・ 他の原液と混ぜないでください。凝固する場合があります。
- ・ 原液での使用はさけてください。
- ・ 子供の手の届かない、涼しい暗所に保管してください。
- ・ 誤って目に入った場合は速やかに清水で充分洗い流してください。
- ・ 用途以外に使用しないでください。

〈ご参考 1a=100m²〉

<アグリパワーの使用法>

<ご参考 1反=300坪=991.734㎡/1a=100㎡>

穀類	米 等	【種】 原液を1,000倍に水で薄め、24～48時間漬ける。	【苗代】 原液を5,000～10,000倍に水で薄め、1 週間に1回散布し3 回繰り返す。	【 水田 】 田植後30～40日頃に、10aあたり原液500mlを5,000 ～ 10,000倍に水で薄め、流水と共に水口から流す。 その場合、出来るだけ長時間かけて、水田全体に流れるようにする※流す前 にある程度、水位を落としておく。	
球根類・根菜類	里芋・ジャガイモ・サツマイモ・大根・人参・チューリップ・ゴボウ 等	【土づくり】 1 反あたり原液100ml を5,000倍に水で薄め、前期収穫後から植え付け前までに1～3 回土壌散布する。		【 種芋 】 1,000倍液に30分漬ける。	【 植えつけから収穫まで 】 1 反あたり原液200mlを2,000 ～ 5,000 倍に水で薄めて散布する。3日～2 週間に1回使用する。
葉菜類	キャベツ・白菜・小松菜・ホウレン草・レタス 等	【土づくり】 1 反あたり原液100mlを5,000倍に水で薄め、前期収穫後から定植までに1～3回土壌散布する。	【 種 】 1,000倍液に10 ～ 20分間漬ける。	【 苗 】 苗の時に原液を2,000倍に薄め、1 週間に1回ずつ3回散布する。	葉面散布は1 反あたり原液200mlを500～2,000倍に水で薄め、3日～2週間に1回散布する。
豆類	大豆・小豆・枝豆・空豆・黒豆・インゲン・エンドウ豆 等		【 種 】 1,000倍液に10秒間漬ける。		

<アグリパワーの使用方法>

<ご参考 1反=300坪=991.734㎡/1a=100㎡>

果菜類	トマト・ピーマン・イチゴ・スイカ・メロン・ナス・キュウリ等	【土づくり】 1 反あたり原液100ml を5,000 倍に水で薄め、前期収穫後から定植までに1~3回土壌散布する。	【種】 1,000 倍液に10 ~ 20 分間漬ける。	【苗】 苗の時に原液を2,000 倍に薄め、1 週間に1 回ずつ3 回散布する 苗の根を1,000 倍液に3 ~ 10 秒間漬ける。	【植えつけから収穫まで】 1 反あたり原液200ml を2,000 ~5,000 倍に水で薄め、週に1 回散布する。 葉面散布は1 反あたり原液200mlを500 ~ 2,000倍に水で薄め、週に1 回~月に2 回使用する。
花卉類	カーネーション・菊 等				
盆栽類	雑木・松柏・サツキ 等	3 坪あたり原液1ml を2,000 ~ 5,000 倍に水で薄め、通年、週に1回土壌灌水と葉面散布する。 植物の状況を見て1 ~ 10 日に1 回散布する。			
果樹類	ブドウ・リンゴ・ナシ・サクランボ・ミカン・カキ・キウイ・プラム・ラフランス・梅・桃等	収穫前、半年間は1反あたり原液100mlを5,000倍に水で薄め、月に2回土壌散布する。 収穫後、半年間は1反あたり原液100mlを5,000倍に水で薄め、月に1回土壌散布する。 葉面散布は1 反あたり原液300mlを500~2,000倍に水で薄め、月に2回散布する。			

<アグリパワーの使用方法>

<ご参考 1反=300坪=991.734m²/1a=100m²>

樹木類	松・檜・樺・杉・白樺・紅葉・柘植・ツツジ 等	原液を5,000倍に水で薄め、土壌散布する。 原液を2,000倍に水で薄め、2週間に1回葉面散布する。
鉢物類	観葉植物・蘭類・バラ・椿・シクラメン・エビネ・オモト・観音竹・高山植物・雪割草・山野草 等	原液を5,000倍に水で薄め、土壌散布する。 原液を2,000倍に水で薄め、通年、週に1回葉面散布する。
	茶	1反あたり原液200ml を2,000～5,000 倍に水で薄め、土壌散布する。 10～1月は月に1回、2～9月は月に2回使用する。 葉面散布は1 反あたり原液200ml を500～2,000倍に薄め、散布する。
水耕栽培	水中で原液が10万倍になるように週に1回投入する。 1反あたり原液200mlを500～2,000倍に水で薄め、1週間に1回～月に2回葉面散布する。	

<野菜の主な害虫>

害虫名	対象野菜	症状
アブラムシ	ほぼ全ての野菜	集団で密生し、直接汁を吸って害を与えるほか、多くのアブラムシはウイルス病を媒介する。
アザミウマ類	トマト・ナス・キュウリ・ネギなど	葉・茎・実の汁を吸い、跡を残す。 また、黄化えそ病を媒介する。
ヨトウムシ類	ダイコン・ジャガイモなど	トヨウガというガの幼虫で、葉を中心に食い荒らす。
オオタバコガ	トマト・ピーマン・ナス・キュウリなど	イモムシ型の幼虫が、葉・茎・実を食い荒らす。
コナガ	ダイコンなどのアブラナ科の野菜	イモムシ型の幼虫が、アブラナ科の野菜のみを食い荒らす。
ダイコンサルハムシ	ダイコン・ハクサイなど	成虫・幼虫ともに、葉を食い荒らす。 とくに有機栽培においてよく見られ、被害も多い。
マメハモグリバエ	トマト・ナスなど	幼虫が葉を食い荒らす。白い線状の跡が残る。
センチュウ類	トマト・キュウリ・ダイコン・ニンジンなど	根が膨れてこぶ状になるネコブセンチュウと、根を食い荒らして腐らせるネグサレセンチュウの2種がある。 連作すると、被害が拡大する。
テントウムシダマシ	トマト・ナス・キュウリ・ネギ・ピーマン・ジャガイモなど	成虫・幼虫ともに、ナス科の野菜を食い荒らす。 段階状の模様の跡が残る。

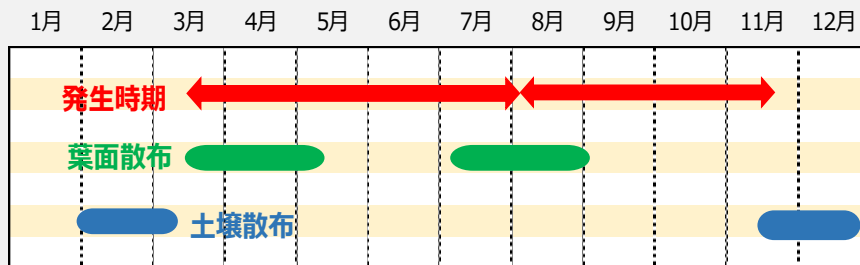
<野菜の主な病気>

病 名	対 象 野 菜	症 状
モザイク病	ほぼ全ての野菜	葉がモザイク状になり、奇形やえそ。
立ち枯れ病	ほぼ全ての野菜	地際部の茎や根がくびれ、褐色腐敗する。 それに伴い地上部は生気を失い、しおれ、やがて枯れる。
半身萎凋病 (はんしんいちょう びょう)	ダイコン・トマト・ナス など	初めは、片側半分の葉が黄色くしおれてくる。 ひどくなると株全体がしおれ、やがて枯れる。
疫病 (えきびょう)	トマト・ピーマン・キュ ウリ・ネギ・ジャガイモ など	小さな斑点が次第に拡大して、暗褐色の大きな斑点とな る。
べと病	キュウリ・エダマメなど	葉の表面に黄色の小さな斑点ができ、やがて拡大する。
炭そ病	キュウリ・ハウレンソウ など	葉や茎だけでなく、実にも発生する。 褐色の丸い斑点が現れ、後にこの部分に黒い細かいな斑 点が多数できる。
うどんこ病	ナス・キュウリなど	白い粉上のかびが葉の表面を覆う。 やや乾燥気味のときに発生しやすい。
灰色かび病	トマト・キュウリ・ナス など	灰色のかびが現れる。 枯れた葉などから感染する。
菌核病	トマト・キュウリなど	葉や茎、実の組織が腐敗し、そこに白い菌糸が密集する ようになる。

<食害性害虫(主に植物の葉などを食害する)>

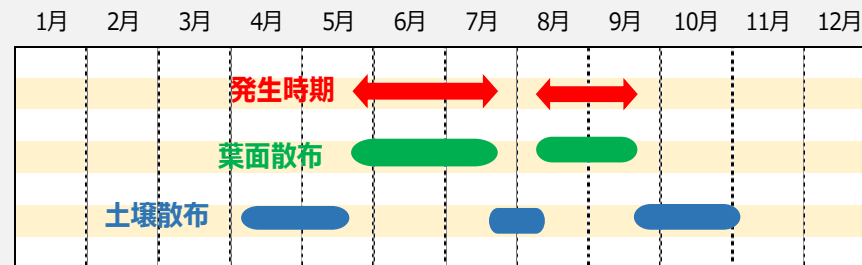
* 発生・散布時期は目安です。液濃度・散布量などは使用方法をご参照ください。

<アオムシ>



アブラナ科のキャベツ・ブロッコリー・小松菜などの野菜に発生し被害を拡大することが多い。

<イラガ>



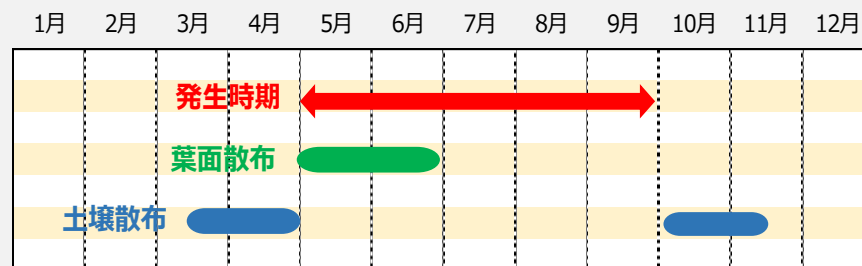
短くて大きな毒針があり、触れると激しい痛みを生じるので直接触れないように注意。極めて雑食性の害虫、硬い殻のまゆを作る。

<エカキムシ>



葉の中に小さな虫がもぐり、白っぽく絵を描くように食害しながら移動する。

<カミキリムシ>



幼虫は鉄砲虫とも呼ばれ、1～2年間にわたり幹の中をトンネル状に食害し、穴から木くずや虫糞を排出する。

<食害性害虫(主に植物の葉などを食害する)>

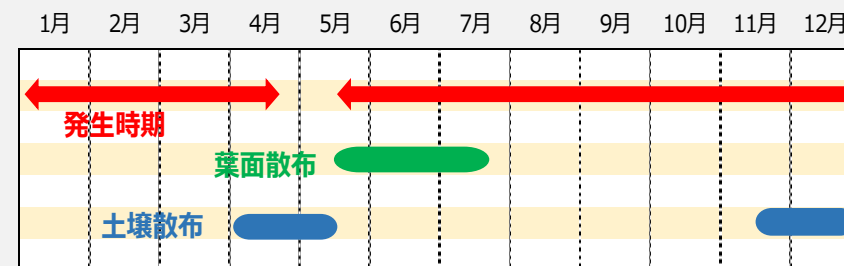
* 発生・散布時期は目安です。液濃度・散布量などは使用方法をご参照ください。

<ハバチ>



外見は毛虫と同じ姿だが、ハチの仲間の幼虫で、大発生するとバラなどの葉を食いつくす。
早期発見、早期防除が必要。

<コガネムシ>



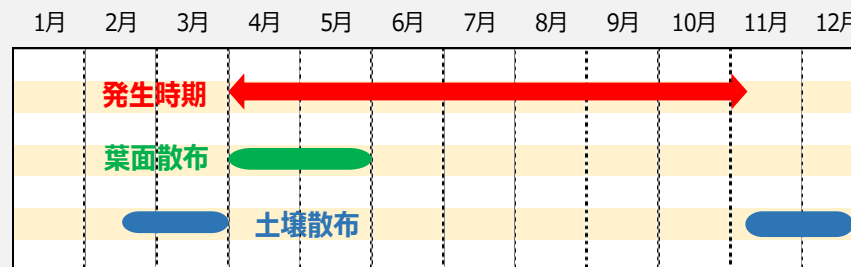
幼虫は土の中で根を、成虫は果葉、草花などの芯・花弁を謝り状に食害、苗は枯死するなど犠牲は大きい。

<コナガ>



葉肉を食害するために表皮が透けたように見え、多発すると株の生育が衰える。
成長に伴い食害量が増えるための早期の防除が必要。

<ヨトウムシ>



昼間は、株元などに潜み、夜間に葉を食害する。
草花や野菜を、たちまちボロボロにし多くの被害を与える。

<食害性害虫(主に植物の葉などを食害する)>

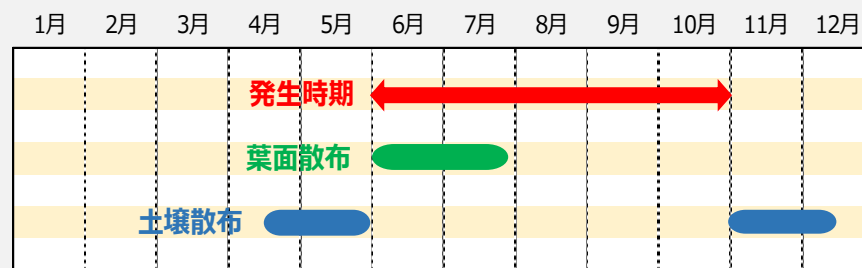
* 発生・散布時期は目安です。液濃度・散布量などは使用方法をご参照ください。

<テントウムシダマシ>



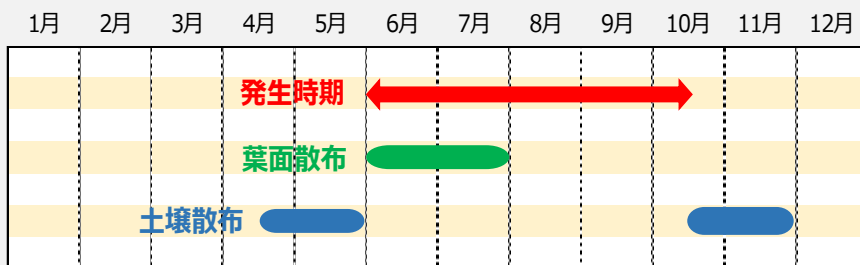
本来テントウムシはアブラムシを食べる益虫だが、この仲間にはジャガイモ・ナス・トマトなどの葉肉だけを食害する。

<ミノムシ>



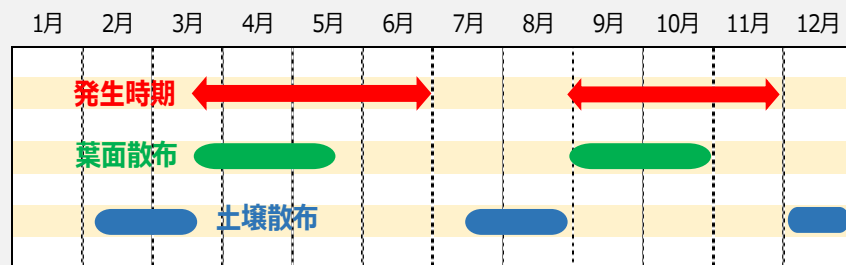
ミノをかぶって移動し、庭木類の葉や樹皮まで食害する。
チャミノガ・オオミノガなどの幼虫は極めて雑食性で、被害は多大。

<タバコガ>



草花の蕾や野菜の果実を一箇所にとどまることなく、次々に食害する。
発生数が少なくても、被害は多大。

<ネキリムシ>

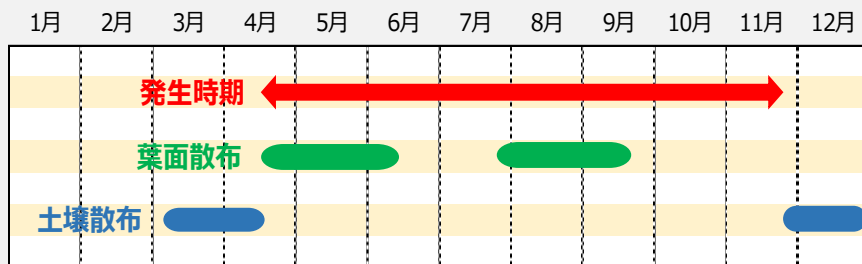


夜間に地表に出て茎や葉を食害し、昼間は土の中に潜伏しているので、退治が困難。

<食害性害虫(主に植物の葉などを食害する)>

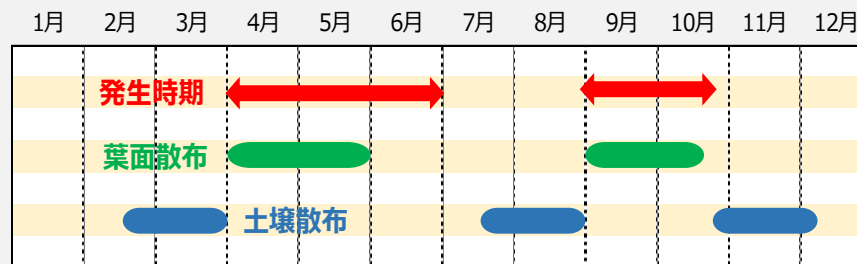
* 発生・散布時期は目安です。液濃度・散布量などは使用方法をご参照ください。

<ナメクジ>



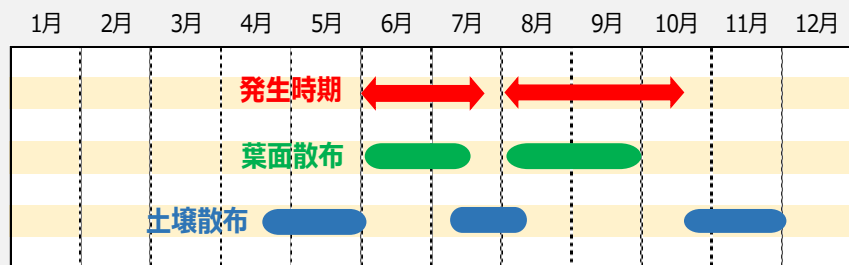
花卉や若い葉を食害。
特に梅雨時に発生が多い。
光沢のある白い粘液のはった跡が見られる。

<ハマキムシ>



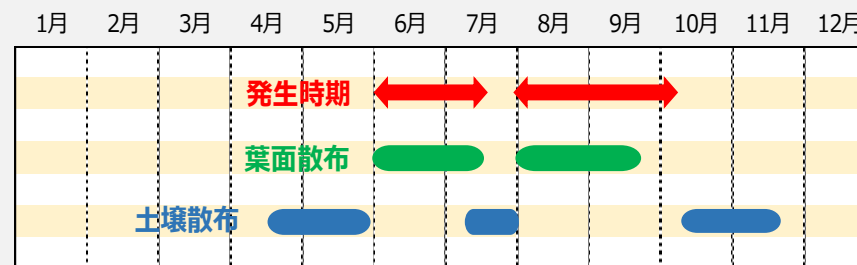
葉を巻き袋状、あるいは綴り合せた中に生息し、葉や芽などを食害する。
極めて雑食性なケムシの仲間。
発生期間が長い。

<ケムシ>



チョウやガの幼虫で主に葉を食害し、種類により年数回発生。多くは若令期には集団で成長するにつれ植物全体に分散し、食害する量も増え薬剤への抵抗力が強くなる。

<カキノヘタムシガ>



カキの主要害虫で、年2回発生する幼虫は孵化直後に食入加害し、芽を枯死させる。
老齢幼虫は果実にも食入し落果させる。

<食害性害虫(主に植物の葉などを食害する)>

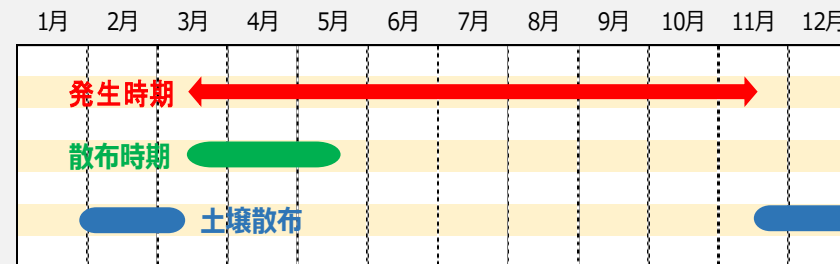
* 発生・散布時期は目安です。液濃度・散布量などは使用方法をご参照ください。

<コナジラミ>



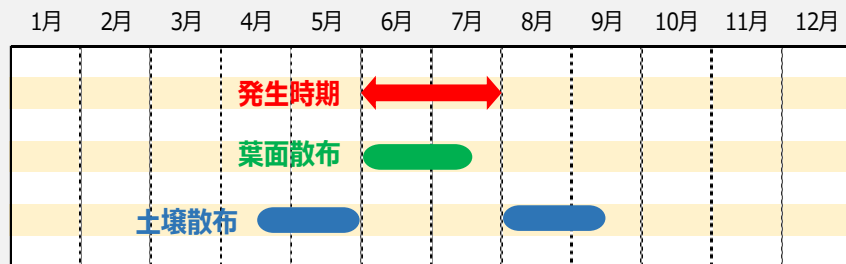
草花、野菜類などに寄生。
植物に触れると無数に飛び交う。

<ダンゴムシ>



植物の茎葉や根を食害する。
ふれると体を球のように丸める。
湿気のある場所に生息する。

<シロアリ>



木材を加害する害虫。4月から7月にかけて羽アリが飛び出る。昼間飛び出ればヤマトシロアリ。夕方から夜にかけて飛び出ればイエシロアリ。

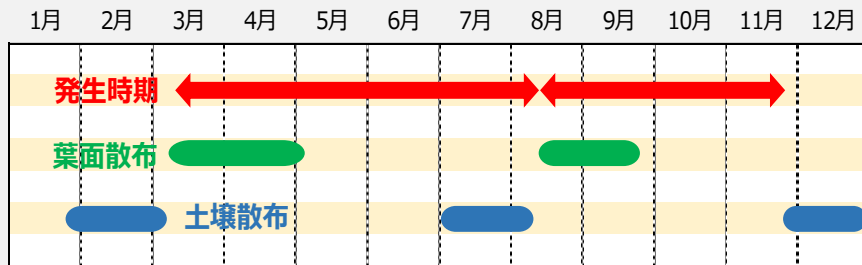
農薬・化学肥料対策

アグリパワーを適度な濃度で土壌散布や葉面散布をすることにより、病害・害虫を抑制、農薬・化学肥料を使用しすぎ、エンガイを起こした土壌を改良(苗付け前・収穫後にアグリパワーを散布)・品質改良でき、農薬や化学肥料の使用を減らすことができます。

<吸収性害虫(主に植物の汁を吸う)>

* 発生・散布時期は目安です。液濃度・散布量などは使用方法をご参照ください。

<アブラムシ>



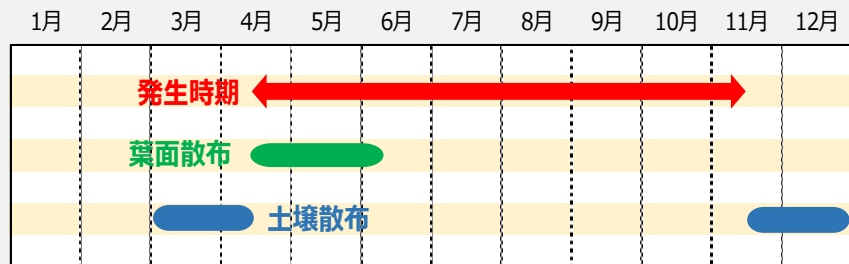
繁殖力が強く、多数の種類がある。
病気の媒介をしたり排泄物でありを誘引する。

<カイガラムシ>



排泄物はすす病やこうやく病などを誘発する。成虫は貝によく似た殻をかぶって防除が困難になるため殻をかぶる前幼虫期の防除が必要。

<ハダニ>



被害が進むと葉の葉緑素がなくなり白くカスリ状となる。

<アザミウマ>



夏の高温時に多発する。
被害が進むと奇形花や開花しない場合がある。

<吸収性害虫(主に植物の汁を吸う)>

* 発生・散布時期は目安です。液濃度・散布量などは使用方法をご参照ください。

<カメムシ>



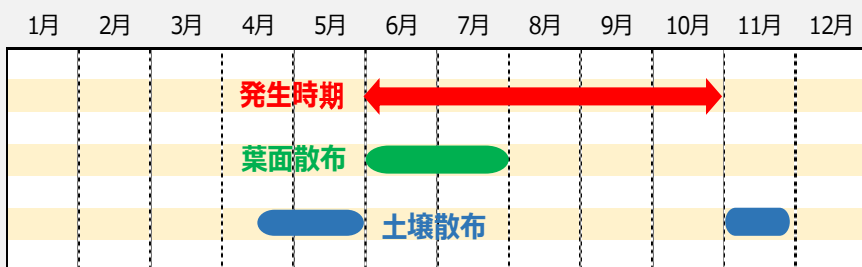
植物を害食したり汁を吸う。
触れると特有の悪臭を放つ。
落ち葉や樹皮の下、壁の隙間などで成虫の
まま冬越しし、春先から活動をする。

<グンバイムシ>



葉裏に白いカス状の被害。

<ウンカ虫>



6月下旬から7月にかけて中国から日本へ
飛来する種類もある。
成虫も幼虫も稲などの茎や葉にストロー状
の口針を刺して吸汁する。

農薬・化学肥料対策

アグリパワーを適度な濃度で土壌散布や葉面散布をすることにより、病害・害虫を抑制、農薬・化学肥料を使用しすぎ、エンガイを起こした土壌を改良(苗付け前・収穫後にアグリパワーを散布)・品質改良でき、農薬や化学肥料の使用を減らすことができます。

<病 害>

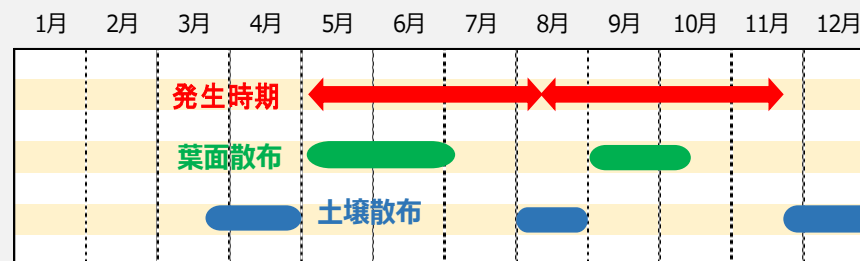
* 発生・散布時期は目安です。液濃度・散布量などは使用方法をご参照ください。

<苗立枯病>



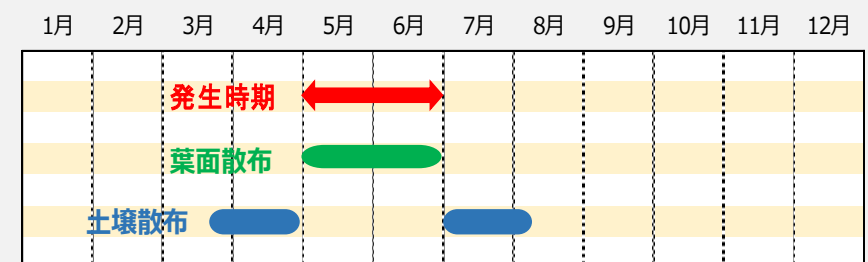
発芽後にすぐ、または定植後に生育のはじめに茎地際からくびれて倒状する。
連作は、避けて排水をよくする。

<うどんこ病>



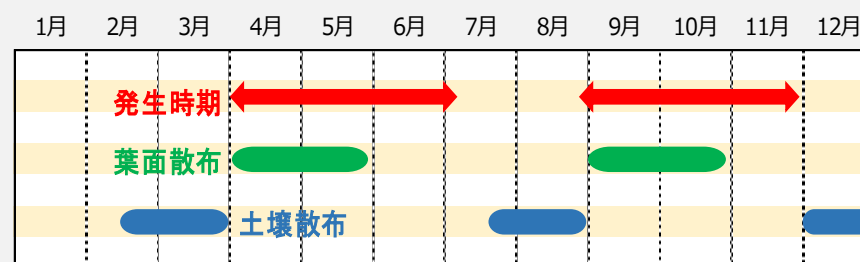
若い葉や茎の表にうどん粉をまぶしたように白いかびが生える。
花梗部につくと開花を阻害する。

<もち病>



葉がもちを焼いたように膨れ、やがて黒褐色となり腐敗する。
被害にあった葉は早めに摘み取る。

<さび病>



葉に小さいイボ状のものができ、やがて薄皮が破れ、中からサビに似た粉が飛ぶ。

<病 害>

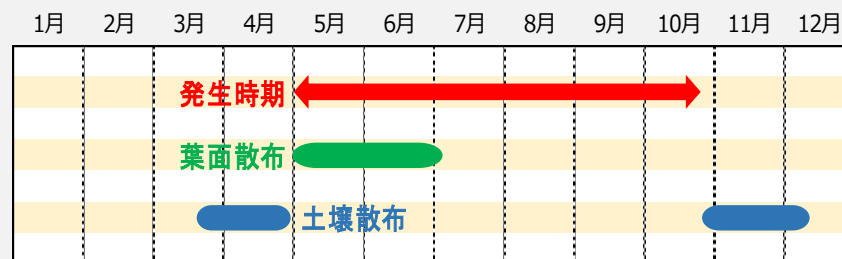
* 発生・散布時期は目安です。液濃度・散布量などは使用方法をご参照ください。

<軟腐病>



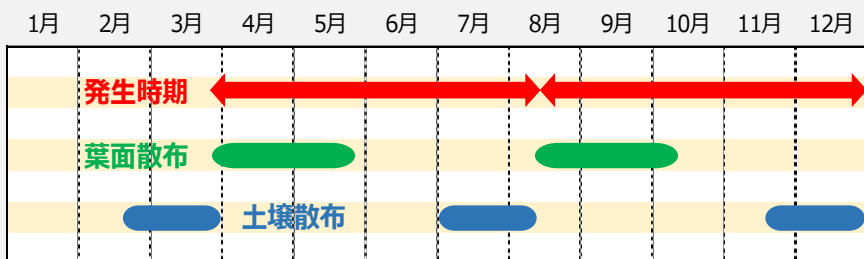
細菌が傷口から侵入する。茎の導管部で繁殖し、養水分の上昇を阻害する。
多汁質の植物に多発し、地際部が腐敗、悪臭がする。

<ブラウンパッチ病>



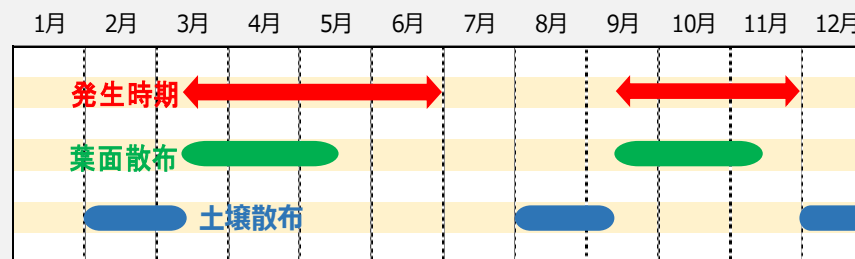
芝生の病気で、緑の芝生のあちらこちらにハゲたようなリング状の症状が起こり、外側から枯れていく。
梅雨時期に多発する。

<灰色かび病>



花卉や蕾、茎葉などにカビが発生する。繁殖力が強く被害部が腐敗する。
やや温度が低く多湿時に発生。

<べと病>

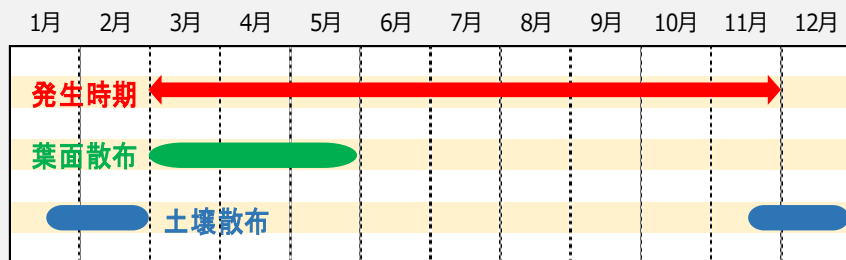


葉に汚れに似た不規則な斑点ができ、次第に大きくなる。
湿度の高い時期に密植しすぎた場所に多発する。

<病 害>

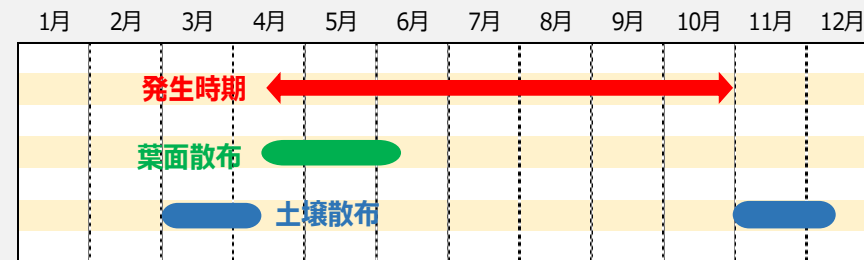
* 発生・散布時期は目安です。液濃度・散布量などは使用方法をご参照ください。

<黒星病>



バラに多く発生し葉に黒い斑点ができる。やがて葉落ちし、株の勢いが衰えていく。梅雨などの雨の多い時期に多発する。

<斑点病>



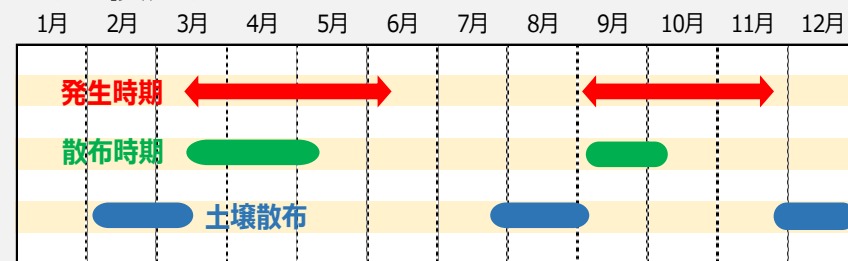
多くの植物に見られる病気。葉に褐色の小さな病斑ができ、次第に拡大する。生育不良や葉落したりする。

<炭そ病>



円形の病斑ができる。葉は穴が開き、果実は落ちるなど、茎・葉・花・果実さまざまな箇所に発生する。

<菌核病>

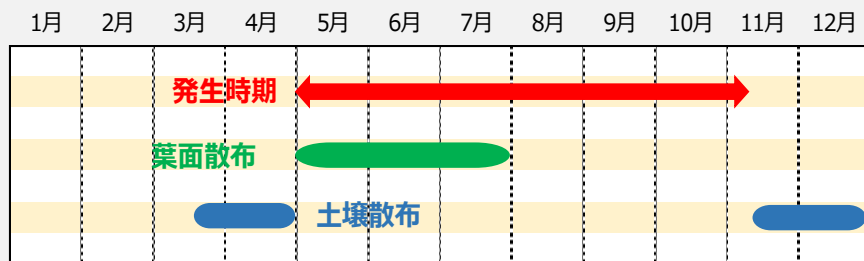


20℃以下の比較的低温時に地際の茎に発生する。褐色から黒色に変化し菌糸が多数出て腐敗し枯死する。菌核は土の中に長期間に残る。

<病 害>

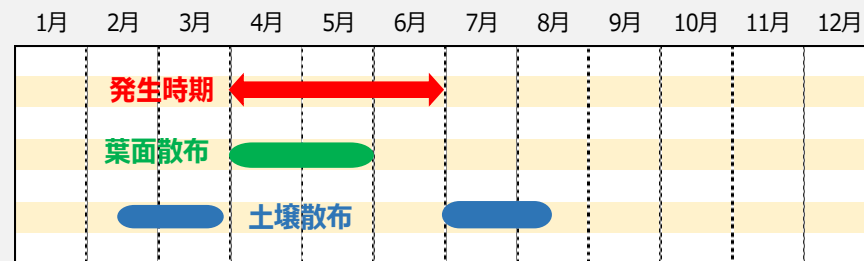
* 発生・散布時期は目安です。液濃度・散布量などは使用方法をご参照ください。

<褐班病>



葉に小さな淡褐色の斑点があらわれ、短期間で大きく広がる。
病葉に黒い斑点が出て、下葉から枯れていく。

<赤星病>



ナシ、リンゴ、ボケなどの主要害菌。
葉裏に毛ばだった丸い病斑が発生する。

農薬・化学肥料対策

アグリパワーを適度な濃度で土壌散布や葉面散布をすることにより、病害・害虫を抑制、農薬・化学肥料を使用しすぎ、エンガイを起こした土壌を改良(苗付け前・収穫後にアグリパワーを散布)・品質改良でき、農薬や化学肥料の使用を減らすことができます。